２０２２年　８　月　２　日
西日本旅客鉄道株式会社

2023 年３月期第１四半期決算説明会　主な Q&A

Q　１Q 実績の計画対比について、全体としては概ね想定通り、運輸収入はやや上振れて推移をしたということだが、その他のセグメントはどうだったのか。また、連結営業利益の通期計画 300 億円に対し、１Q で 195 億円と半分以上の進捗であり、経常利益は１Q で通期計画を超えている。これは修繕費など１Q 時点ではまだ費用が出ていないからなのか。あるいは営業費用を抑制できているからなのか。

A　運輸収入は若干上振れだったが、波を打ちながら徐々に回復していくという業績予想上の前提においては、4-6月はほぼ想定どおりの推移であった。鉄道以外については、物販飲食や SC など日常の生活に関わるところはほぼオンラインであった一方、新幹線のご利用に連動するホテル等は若干弱かった。少しばらつきはあるが、トータルではほぼ想定どおりだと考えている。
営業利益については、構造改革を推進して費用抑制に努めている効果が出ていると考えている。またコストの出方として、1Q は弱く、期末にかけて増えていく傾向も確かにある。これら両方の要素などから1Q の営業利益実績になったと考えている。

Q　足元の状況について、感染拡大の影響により 7 月に入ってからのご利用状況やお盆の予約状況に変化はあるか。

A　山陽新幹線は6月、7月共にコロナ前比 67%と横ばいであるが、7月最終週は同6割程度だった。近畿圏は6月が同 91%、7月は同 87%だった。7月最終週は同8割程度であり、出控え等の影響が出ている。全体として4-6月との比較では7月は少し弱含みと認識している。徐々にご利用が上がっていくという想定に対しては足踏みをしているという状況である。お盆の予約状況は、足元でもコロナ前比6割程度と先般公表した時点から変わりはなく、予約が伸びているという状況ではない。4-6月の状況に比べると感染拡大の影響が出ていると感じており、引き続き動向を注視していく。

Q　コロナ感染第7波の影響下でも大きな減収となっていないのであれば、通期営業利益が計画を上回ることも想定されるが、緊急的コスト抑制を緩めていく考えはあるか。

A　今期は収入が波を打ちながら回復する想定であり、かつ足元は弱含みという状況である。予断を許さないとの認識を持ってコスト削減は引き続き取り組んでいく。

Q　感染拡大の影響を除いたとしても、新幹線が 12 月末にコロナ前比 90%まで回復するという想定はハードルが高いと思っている。現在同 67%まで戻っていることは悪くはないが満足といえる状況なのか。新幹線における1Q 期間での回復力、旅行やビジネスの回復をどのように評価および認識しているのか伺いたい。

A　1Q 期間は想定よりも少し上振れて推移した点は期待通りと言える。コロナの状況が改善し、生活様式が少しずつ変化していくことも考えながら 12 月末にコロナ前比 90%と想定した。これは自然体で達成するものではなく、旅行需要の回復に合わせて施策を打ち、ビジネスに関しても新幹線での出張移動がより便利になるような環境づくりをしていくなどの努力が奏功しての計画であるため、需要喚起の取り組みを着実に進めていきたい。旅行やビジネスの傾向の違いについては、旅行需要の戻りの方が早いと考えている。休日に比べて平日のご利用が少し低調なことから、ビジネスについてもより効果的な取り組みが必要だと考えている。

以　上